

## マナスル西面トレッキング

長崎大学学士山岳会 前波 政昭

我々の山岳会では過去3回、コスモ・トレック社にお願いしてきた。2015年の大地震でトレッキングを躊躇していた。支援事業等にも参加していたが「ネパール国民にとってトレッキングに来ていただくことが一番の支援につながるのです」という言葉が励みになった。

今回の参加者10名の平均年齢が72歳である。この高齢者でトレッキングできる地域はおのずと限定されてしまう。そこでマナスル西面は最近ロッジも整備されてきたという情報と短期間でトレッキングを楽しむことができるということでこの地域に決定した。

**10月19日、ベシサハール～ダラパニ（6時間）** 昨日のカトマンドゥ～ベシサハールまではバスで移動したが、本日のこのルートはローカル・ジープでないと通行できない。舗装されていない悪路を前後左右に揺られながらの移動である。おりしもこの三日間は祭りであり我々の3台のジープは子どもたちの集団にいたるところでストップさせられることになる。祭りの期間中は子どもたちの天下でドライバーから数ルピーの紙幣を通行料としていただくのがこの期間の子どもたちの楽しみであるという。十数人の集団で紐などを張ってとうせんぼ。なかには全員で手をつないで車の行く手をはばむなどの微笑ましい光景であった。



<チャムチェの大滝 >

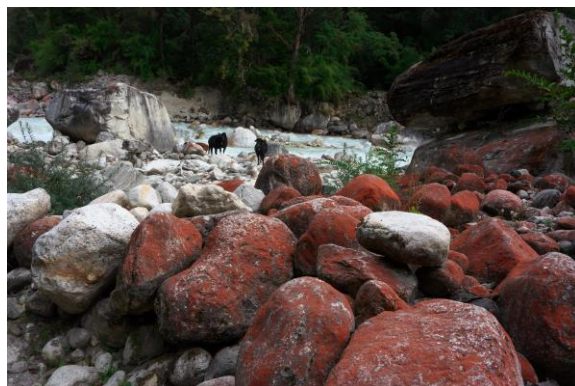
チャムチェで昼食をとる。この店の前に落差202mの大滝がある。昼の光に虹をともなった大瀑布に今までの車のゆれを癒してくれた。ここから2時間ほどでダラパニだとガイドは言う。しかし、途中数百メートルもある大岩壁に道らしい削り跡を見上げると、あそこを通るので高所恐怖の人は山側に座ってと言う。このルートは昼食を入れて6時間であるが事故も多いらし

い。車を使わないトレッキングコースでは三日間の行程である。マルシャンディ・コーラの対岸に多くのロッジやトレッカーの姿も見られ、またこの車道をトレッカーと行き交うのである。ダラパニはアンナプルナ外院とマナスル西面トレックとの分岐点であった。

### 10月20日、ダラパニ～カルチェ（8時間）

いよいよここからマナスル西面トレッキングの始まりである。ドウドゥ・コーラ沿いに数か所のつり橋を渡り、自動車道並みの広い道を歩く。

ティリチェでお茶タイム、ゴーで昼食をとりゆっくりと歩く。カルチェ近くになると河原の丸い石が赤い苔に覆われた不思議な光景を目にする。一面赤いペンキで塗られたような河原を白濁した氷河の水が流れているのである。また近くの森では顔が黒、頭が白く尾が長い猿の一団ラングールと出逢った。ガイドたちは現地のことばで「デリュー」と。



<赤い河原>

### 10月21日、カルチェ～ビムタン（7時間）

毎日8時出発である。樹林帯を進み時々あの赤い河原を目にしながらかくナゲの大木や幹周り6メートルもありそうなモミの巨樹を目にする。ところどころ真黒くなり立ち枯れている大木もある。おそらく落雷によるものであろう。最後のロッジ(Purti Himalayan Hotel)で昼食となる。ここで初めて雪の山々を見ることができた。ラルキヤ・ヒマールの山並みである。人手が少なく昼食の準備に2時間もかかる。

まだまだ樹林帯が続く。標高3500mでもモミの大木が鬱蒼と茂っている。木々の切れ間からマナスルの山々が見え隠れするようになる。突然広大な氷河のモレーンが眼下に現れる。右にマナスルを見ながらビムタンへと急ぐ。17:00の到着である。広大な草原に周りはモレーンに囲まれ、多くのロッジが並んでいた。

### 10月22日、ビムタン～ポンカール湖（5時

間半) 標高 4000m 近くになると 3 名が体調をくずし、7 名でポンカール湖へと登る。すぐそこに見えるモレーンの丘までなかなか着かない。距離感が狂ってしまう。3 時間半でポンカール湖に着く。天気も良くパンバリヒマールが湖に逆さに映る絶景である。登ってきた道をゆっくりと下山する。13:30 にロッジに帰る。午後になると決まってドゥドゥ・コーラの谷から雲が湧き周りの山々を埋め尽くしてしまう。夕景の写真が全く撮影できない。



<ポンカール湖>

#### 10月23日、ビムタン～ゴ（7時間）

ガイドの提案で本日ゴまで下りることにする。ビムタン滞在を1日少なくし、ジープでの道程を考えてその分ダラパニで休養することに計画を変更する。



<マナスル雪煙>

出発前、マナスル本峰から雪煙が風にあおられ朝陽に輝いている。モレーンの谷間で山々を振り返るとブンギヒマールしか見えず他の山々はもう雲に覆われ始めた。下山は楽である。しかし、カルチュを過ぎた辺りから雨が降り出した。傘や雨具を付けての下山となった。ゴのロッジに着くと中央大学の OB と一緒になる。彼らはロッジ前の庭にテントを張っていた。私たちと同年代で学生時代の北アルプスの剣岳などの山行に懐かしい時間を過ごした。

#### 10月24日、ゴ～ダラパニ（4時間）

昨日の雨は、標高が高いところは雪となって

いた。ロッジの前の山々は白い山に変化している。おそらくビムタンは雪になっていることだろう。1日早く下りたのが幸いした。

途中ゴンパにお参りしたりして早々とダラパニに到着する。今までの汚れをシャワーを浴びたり、洗濯をしたりして明日のジープでの道程に備える。しかし、夕方になると雨が降り出し洗濯物が乾かないままに帰ることになった。

#### 10月25日、ダラパニ～ベシサハール（5時間半）

帰りは少し大きいジープ2台で下山する。やはり大岩壁の通過には肝を冷やす。以前9人が亡くなった話を聞くとなおさらである。

今回もポカラ～カトマンズでバスが落ちて30数人、その後の新聞ではジープが400m落ちて5人、500m落ちて9人が亡くなったと報じていた。

この後ポカラに出て、オーストラリアンキャンプに泊したが天候が悪く山々の姿を見ることがなくまたポカラに戻る。

今までのトレッキングでは2週間ほど歩くのがふつうであった。今回は車を使うことで日程を短くしたが車の事故を考えると再考の必要があるとつくづく思われる。しかし、高齢者10人が無事トレッキングを楽しめたのは、コスモ社やガイド、アシスタントガイド2名の大学生の支援の賜物であったと心より深く感謝したい。